

Case1 2 ロタウイルス胃腸炎

1才5か月 女児

＜主訴＞ 白色水様便

＜現病歴＞ 平成10年12月14日より白色水様便が続いていた。12月16日7～8回/日の嘔吐を認め元気ないため12月17日午後9時当院救急外来を受診した。脱水著明なため入院となった。

＜入院時現症＞ 全体に元気がない。体重は0.8kg減少していた。咽頭発赤を認めず、口唇は乾燥していた。肺野清、心音整。腹部肝脾触知せず。腸蠕動音は亢進していた。

＜検査＞ BUN 18.3mg/dl、Creatinine 3mg/dlと脱水所見を認めた。WBC 15300/ μ l、CRP O.4mg/dlと軽度炎症所見あり。Na 138mEq/l、K 4.1mEq/l、Cl 110.6mEq/lと電解質の異常を認めず。GOT 59 IU/l、GPT 1 IU/lと軽度肝機能障害を認めた。

＜経過＞ 臨床所見よりロタウイルス胃腸炎および脱水と診断し、脱水補正のため輸液を開始した。家族には冬期に流行するウイルス性胃腸炎であること、2才未満で重症化して入院を要することが多いことを説明し、ご理解いただいた。

輸液開始後12月18日（第2病日）にはあやすと笑うようになり、12月19日（第3病日）軽快退院となった。入院時の便検査よりロタウイルス抗原が検出された。退院時には軟便は1週間ほどで軽快すると説明した。

＜考察＞

ウイルス性胃腸炎の鑑別診断としては、アデノウイルス、ノーウォークウイルスを考えた。白色水様便を伴う典型的な症状で発症したため鑑別は容易であったが、アデノウイルスの場合には下痢症状が2週間持続することがあること、ノーウォークウイルスの場合下痢症状は2～3日と短期間であることから臨床的にも診断することが可能であった。